

のはらうたの会20周年記念イベント 赤羽茂乃講演会 「赤羽末吉 スーホの草原にける虹」

小学校の読み聞かせボランティア「のはらうたの会」の活動が、令和5年度で20周年を迎えます。これを記念して、『スーホの白い馬』など数多くのロングセラー絵本を描いた赤羽末吉の世界と、その魅力にせまる講演会を開催します。

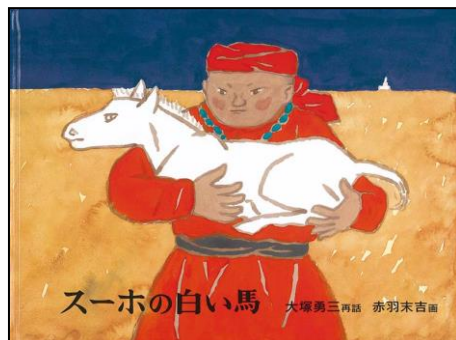
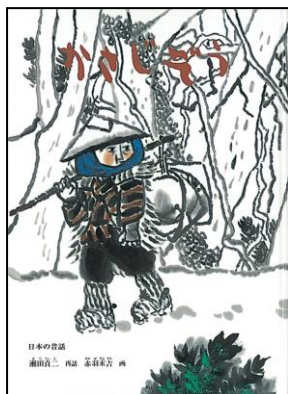
日時:5月28日(日) 13:30~15:30
場所:あしたむらんど下條 会議室

三男の妻として身近に接した赤羽茂乃さん(赤羽末吉研究第一人者)が、その仕事を振り返りながら、戦前・戦中・戦後を力強く生き抜いた画家の生涯をたどります。
赤羽末吉著書:『かきじぞう』『スーホの白い馬』『だいくとおにろく』『こぶじいさま』『ももたろう』『おおきなおおきなおいも』『王さまと九人のきょうだい』『日本の神話』全6巻『日本の昔話』全5巻ほか多数。



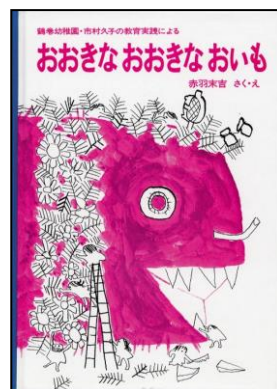
『絵本画家 赤羽末吉 スーホの草原にける虹』 赤羽茂乃著

『かきじぞう』 1961年



『スーホの白い馬』改訂版 1967年

(写真は全て赤羽末吉/画 福音館書店)



『おおきなおおきなおいも』

1972年

講師: 赤羽茂乃(あかば しげの)

1952年東京生まれ。1979年、絵本画家赤羽末吉の三男研三と結婚。住まいを近くし頻繁に行き来しながら、義父の日々の暮らしに触れる。1990年、赤羽末吉他界後は、夫研三とともに遺された原画やフィルム、スケッチなどの整理に携わりながら、絵本画家がたどった軌跡とその作品について調査を重ねる。現在、赤羽末吉研究の第一人者としてその生涯と作品の魅力を多くの人々に伝えるため、各地で精力的に講演活動を行っている。

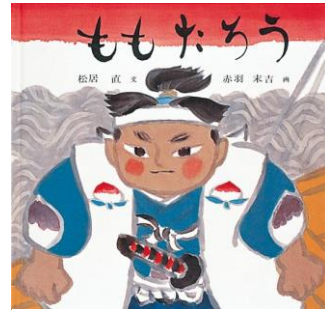
画家としての全業績に対し、日本人初の国際アンデルセン賞(児童文学のノーベル賞と称される)画家賞受賞(1980年)

- 対象:どなたでも(託児が必要な方はお申し出ください)
- 定員:50人
- 参加費:無料
- 申込み:要事前予約(4月10日より電話、カウンターにて受付)
- 問合先:のはらうたの会(代表 絹田智花/副代表 生嶋利子)
- 下條村立図書館 TEL0260-27-3585 月曜定休
- 下條村教育委員会 TEL0260-27-1050 土日祝休

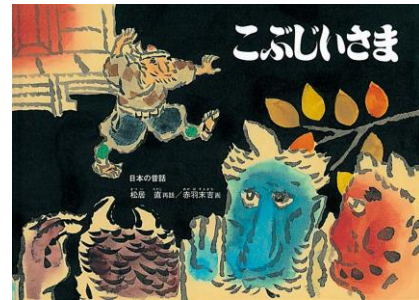
主催:のはらうたの会 講演会の後、サイン会と
共催:下條村立図書館 絵本の販売があります。

赤羽末吉(あかば すえきち)プロフィール

1910 年、東京都生まれ。32 年、旧満州(現・中国東北部)に渡る。わずかな期間を除き、独学で絵を描く。満州国国展で、3 回特選入賞。47 年、帰国。アメリカ大使館に勤務のかたわら、挿絵、絵本の仕事をする。61 年、『かさじぞう』でデビュー。以後、『スーホの白い馬』、『だいくとおにろく』などを発表。絵本美術とともに、西川流宗家一門の舞踏劇の舞台美術を手がける。65 年、『ももたろう』(福音館書店)と『白いりゅう 黒いりゅう』(岩波書店)でサンケイ児童出版文化賞を受賞。その後も内外の賞を多数受賞後、80 年にはその全業績に対して日本人としては初めて国際アンデルセン賞画家賞を受賞。82 年、『絵本わらべうた』、『そら、にげろ』(ともに偕成社)で、ライプチヒ国際ブックデザイン展金賞を受賞した。生涯 80 冊の絵本を遺し、90 年没。



『ももたろう』1965 年



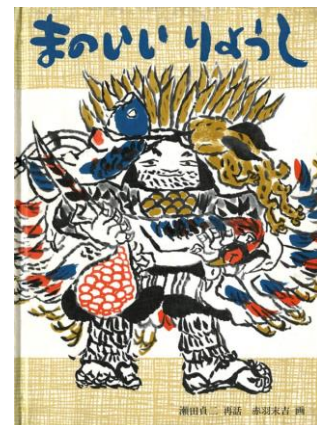
『こぶじいさま』1964 年



『くわすにようぼう』1977 年



『だいくとおにろく』1962 年



『まのいいりょうし』1973 年

のはらうたの会をご紹介します

のはらうたの会は、平成 15(2003)年に当時の下條小学校・読書教育担当の先生の呼びかけで、5 人の会員から活動が始まりました。現在では P T A 会員のほかに地域の方も加わり、30 代から 70 代の 13 名で活動しています。「のはらうた」という名前は、詩人・工藤直子さんの詩集タイトルから付けた名前です。

主な活動

- ① 1 か月に 1 度、小学校の授業開始前の 15 分間に各学級に入り、絵本の読み聞かせをします。
- ② 本番に備え、事前に研修(練習)会を開き、選んだ本をお互いに読みあい、読むスピードや本の持ち方、ページのめくり方、季節に合っているかなどお互いにチェックしあいます。司書も同席して、時間を計り選書のアドバイス等を行います。
- ③ 年度初めに講演会を開き、「子ども」「絵本」について勉強しています。